とうきょう すくわくプログラム
こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

施設番号	６６－０８０１
施設名	西池袋そらいろ保育園
施設所在地	豊島区西池袋２－２５－２０
法人名	社会福祉法人みつばち会

とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

活動のテーマ①　　　「自然環境」

テーマの設定理由

保育園のシンボルである桜の木が病気になったことをきっかけに、植物にも命があることを伝えたい。また生きていく上で植物や土壌生物、土壌菌との共存の重要性を様々な経験を通して、感じ取り、理解していける環境が必要だと考えているので、幼少期のとっかかりとして身近な自然環境の中で、植物や生物、土・砂・水などに触れ、その感覚や不思議さなどが探求活動に広がっていくと考えている。

活動スケジュール

R6,11　桜の木　再生プロジェクト始動
　　植物の専門家から現在の桜の木の状況とこれからどのような治療ができるか話を聞く。
R6,10　桜の枯れ枝剪定工事
R6,11　伐採した枝にしいたけ菌を注入
R7, 1　畑作り
R7,2　土壌菌を活かした畝づくりの体験会に職員が参加し学ぶ。
R7,3　現状の桜・園庭の把握撮影

準備した素材や道具、環境の設定

土・竹炭・栄養剤（土壌改良のため）・園庭の一部に畑を作るための園庭整備

探求活動の実践報告（内容・子どもの姿・保育者との関わりなど）　※写真２枚以上

桜の木
樹木がどのような状態なのかを理解するのは難しいことではあるが、専門家の話を聞いていた。その後、桜の木に「元気になってね」と話しかけたり、枯れ枝や樹木に生えたキノコなど小さな変化にも気づき、それを大人に知らせてくる姿もみられた。また、枯れ枝を使っての「しいたけ栽培」はまだシートをかぶせている状態なので子どもたちの反応は薄いが、来年度に継続していきたい。

土・畑づくり

土を耕すことに興味を持ち、大人の真似をしながら畑づくりに参加する子が多くいた。その中で、なんのために土をふかふかにするのか？この場所で何をするのか？野菜はどうやってできるのか？など次々と疑問を持ち、聞いたり調べたりすることへ繋がっていった。同時に土や砂・水の混ざり具合によって触感の違いに築き、泥だんごづくりに適している土はどこにあるのか？と、探求していく姿が見られた。 　また生息する生き物の違いに気づき、昆虫採集や生き物の生態を知るために飼育するなど遊びが展開していった。 　０・１歳児に対しては、まずは土や砂・水にいつでも触れる環境を用意し、その感覚を知る機会を作った　ことで、言葉にはならないが、表情が豊かになり、もう一度触ってみようとする姿も多く、これからの探求活動の第一歩だと感じた。
振り返り
桜の木については枯れたらおしまいではなく、病気が治ってほしいという思いからの優しさや、変化に気付く力が個人差はあるが芽生えてきていると感じた。また枯れた枝の再利用（しいたけの栽培やおままごと基地作りなど）や、落ち葉を発酵させることで土の栄養素になることなどを伝えながら実際に作業することができた。 「土」の存在一つで、畑や植物に活かす方法、触感や性質の探求をきっかけに遊びが広がる様子、そこに生息する生き物への興味、多岐にわたり自然環境のもたらす子どもへの影響を知ることができた。 　１年でどうにかなるものではなく、来年度は実際に耕した畑で野菜を育てそれを食べる喜びを経験すること、全身で土・砂・泥・水に触れることで五感への刺激、数年にわたりこの環境づくりを継続し、子どもの探索活動が広がるようにしたい。 　この「すくわくプログラム」をきっかけに、どこを大事に保育していくのか？どのような環境があればそれが実現するのか？実際やってみてどうだったのか？など、職員間での話し合いが多くできるようになったのも良かった。

活動のテーマ② 子どもが主体的に遊ぶことができる環境を探求しながら子どもと一緒に作る
テーマの設定理由
そらいろ保育園では、子どもの主体的な活動を大切にする保育を目指している。その保育方針を基本に、子どもたちの姿を見た時に、「こんなことをしてみたい」「こんなものがあったらいい」という子どもからの発信を受け止め、一緒に考えながら環境を整備していくことで、それぞれの子どもが主体的に遊びを展開させたり、興味関心のある分野の探求活動ができると考えた。
活動スケジュール
R6,12　　園庭遊具作り（一本橋・砂場までの橋） 　　　　　遊具の改造 R7, 1 ～　築山作り・斜面作り・砂の補充・園庭の整備
準備した素材や道具、環境の設定
木材・土・砂
探求活動の実践報告（内容・子どもの姿・保育者との関わりなど）　※写真２枚以上
以前からあるタワーに登れる子が増え、年中長児の中には、しばらく変わり映えしない様子の園庭に魅力を感じていない様子が覗えた。そこで、チェレンジ性のある遊具や年齢を問わず様々な遊びが展開できるであろうと予想し、斜面を作った。 　高さのあるタワーに関しては、登り方のパターンが増え、それぞれ自分のやってみたいところでチェレンジする子どもが増えた。また、初めてチャレンジする子にアドバイスをしたり、見守って応援することで仲間意識が芽生え達成したことを喜び合う姿が見られた。 　斜面は予想通り、滑る（座る、寝そべる、後ろ向き）、駆け降りる、登るなど、個々によって様々な遊びが展開されるようになった。そこで「衝突する危険性」が出てきたが、大人が勝手にルールを決めるのではなく、「小さい子がいる時には大きい子が待ってあげる」「人が沢山いる時は、「すべるよー」「登るよ」と声をかける」「滑ったら止れないから、登ってくる子がいる時は滑らないで待つ」など、子どもたち自身がどうすれば解決できるかを考え意見を出し合えた。もちろん、全員がそれを守れる訳ではないが、理解している子が教えてあげるなど、異年齢の関わりや相手を思う気持ちが自然に芽生えており、遊び方を探求するだけでなく、探求活動を通して心が成長していく様子が見られた。さらに、友だちの遊ぶ姿を見て、真似をしたりチャレンジし始める子、同時にその様子をじっと見つめている子、自分のタイミングを計っている様子の姿、 個々によって様々な様子が見られた。 　また、これらの遊具を職員だけではなく、園児・保護者も一緒に作ったことで、自分たちで考えたものが形になったことも貴重な体験となっていた。
振り返り

一人ひとりが、自身の身体や気持ちと向き合う様子を知るきっかけとなった。その様子から個々応じた必要な援助や配慮について職員間で共有したり、今回は幼児クラスメインの園庭整備となったが、その様子を見て乳児の発達に合わせた環境作りを考えることができたので、次回に活かしていきたい。
また、遊具を職員だけで作るのではなく、園児、保護者も巻き込んで作業したことで、子どもの発達への理解や子どもを真ん中に置き、大人も子どもも共に成長し合う「共育ち」の関係性を大事にすることもできた。
子どもたちは、その工程を一緒に体験することで、次はこんなものを作ってみたいからどうすれば良いか？と発想を膨らませ考える事にも繋がり、実際に自分たちで作ったものを大事にするために手直しを加えようとしたり発展してしている。困ったときには自分たちでどうにかするという思いも育っているので、これらの点を大事にしながら、今後の活動につなげていきたい。

1/14(火) 今日の園庭の様子(午後)

土曜日のワークで
園庭に滑り台ができました😊
子どもたちは
大喜びで午前中も午後も園庭で
たくさん遊んでいましたよ😊

遊びがどんどん展開していき
滑り台の下には「サメ🦈」が
いるそうで…
滑り台から落ちないように必死です🤣
ひとりの子のイメージが
友だちと一緒になることで
遊びが広がり、
滑り台一つで
子ども同士のやりとりや遊びが変わる。
本当に環境って大切だなと感じました。

茂木さんに
お願いされ
土を入れて
くました✨

PIC•COLLAGE